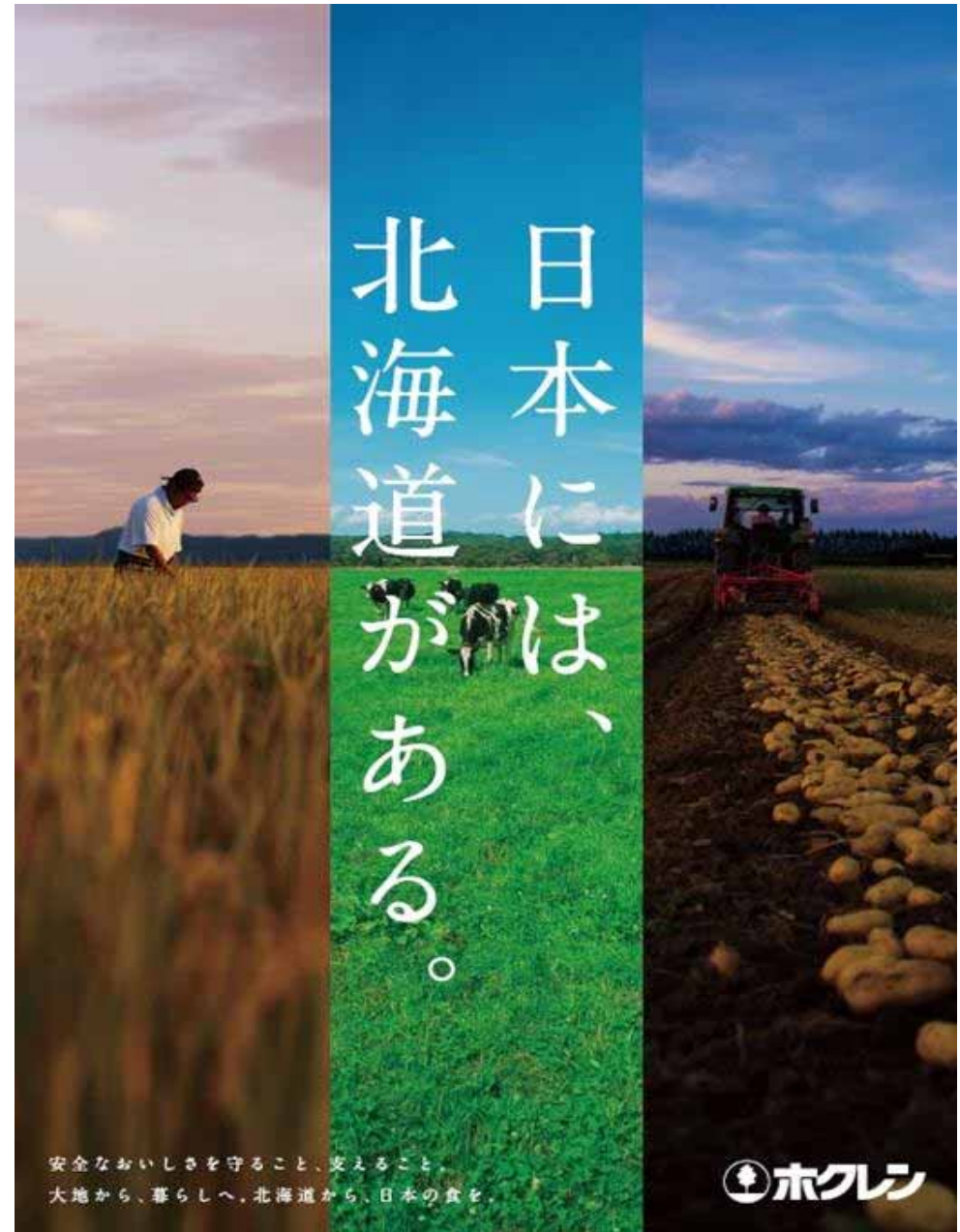


生乳取引の 現状と課題

酪農業の一層の
活性化に向けて

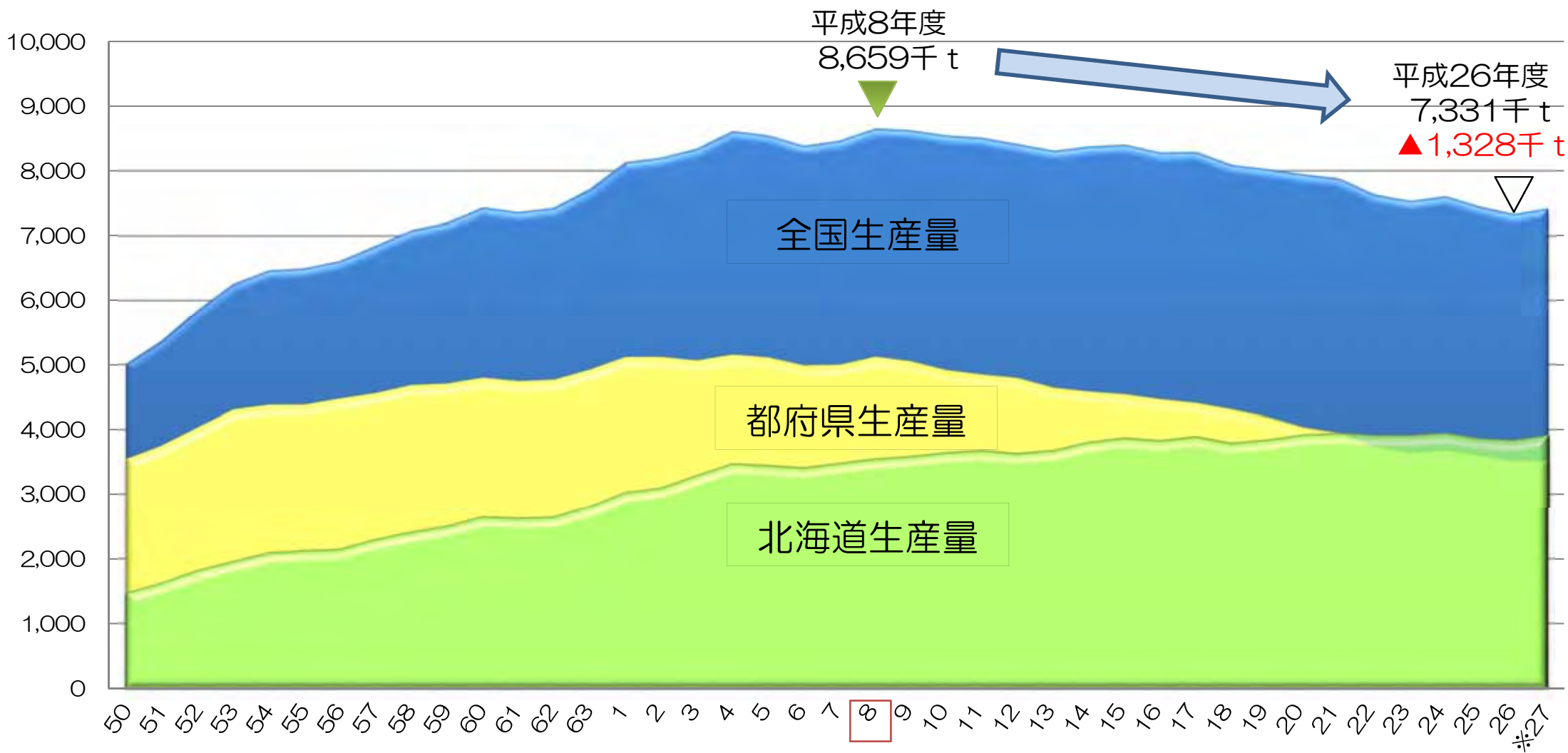
ホクレン農業協同組合連合会



我が国の生乳生産量の推移（農林水産省 牛乳乳製品統計）

- 日本の生乳生産は平成8年度がピークでありその後は減少が続いている。特に都府県の減少が大きく平成22年度には北海道の生産量が全国の5割を超えた。
- 平成23年度以降、北海道の生乳生産も停滞が続いたため、酪農家に増産を強く呼びかけ、26、27年度に搾乳牛増頭対策を行った結果、26年度後半よりプラスに転じ、27年度は102%程度の増産を確保できる見通しにある。

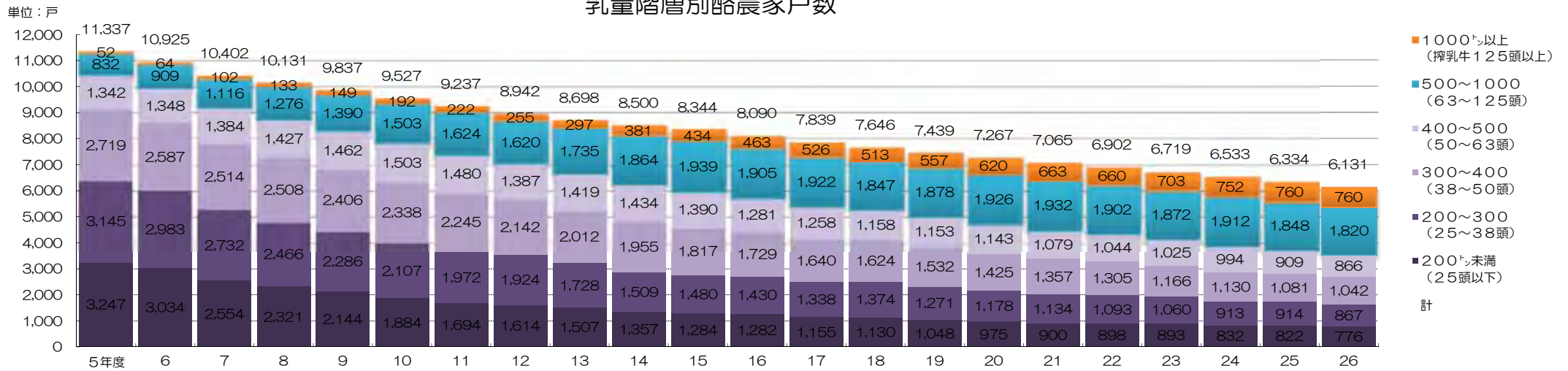
単位：千トン



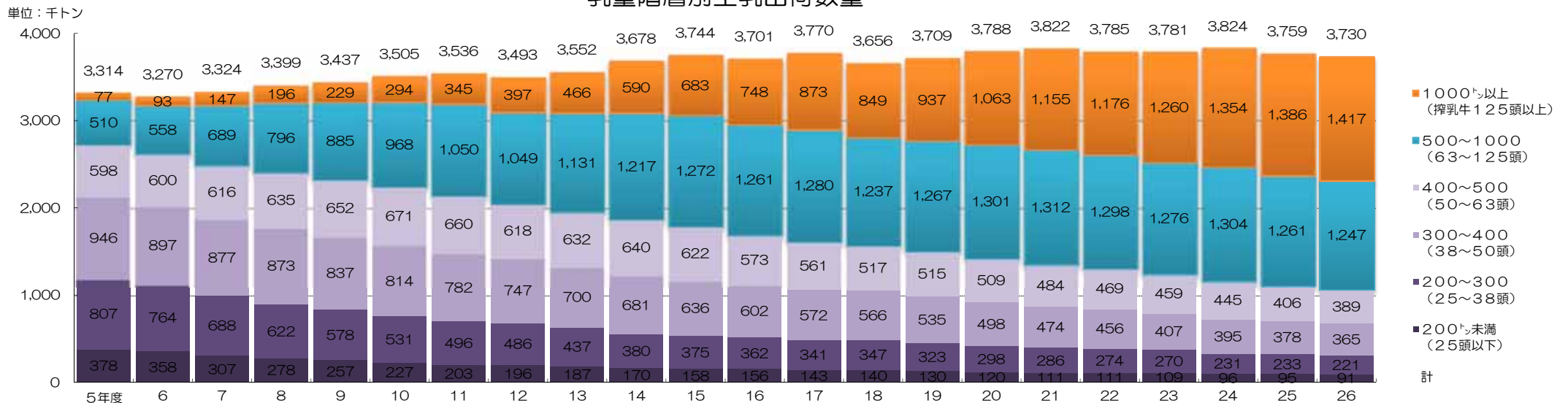
北海道酪農の現状

- 酪農家戸数は20年間で半減したが、一戸当たり搾乳牛頭数は規模拡大（投資）により増加を続けてきた。
- 生乳出荷量1,000トン（搾乳牛約125頭）未満層の酪農家による生産量は減少の一途をたどっている一方、1,000トン以上層の酪農家がそれを上回る伸びを示し北海道全体では増加してきたが、近年は横這いで推移している。

乳量階層別酪農家戸数

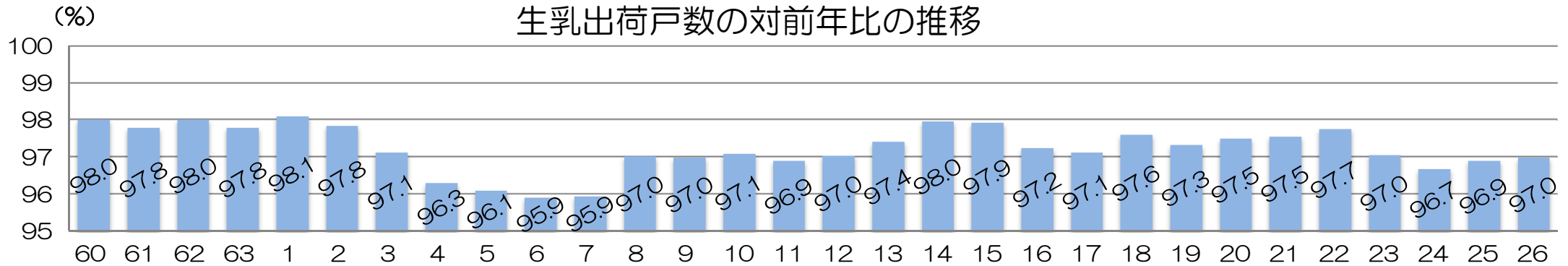


乳量階層別生乳出荷数量

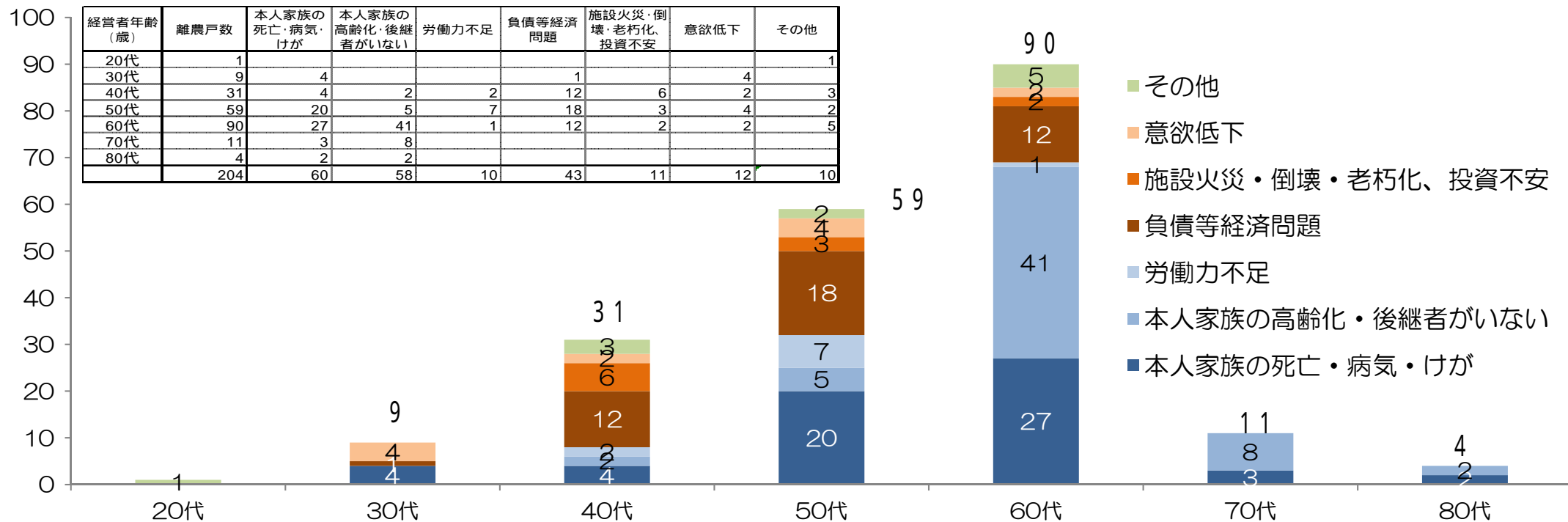


北海道酪農の現状（離農の要因）

- 生乳出荷戸数は**3%前後の減少**を続けている。
- 離農農家は60代50代が四分之三を占め、「**病気やけが**」「**後継者がいない**」が離農主因の6割。



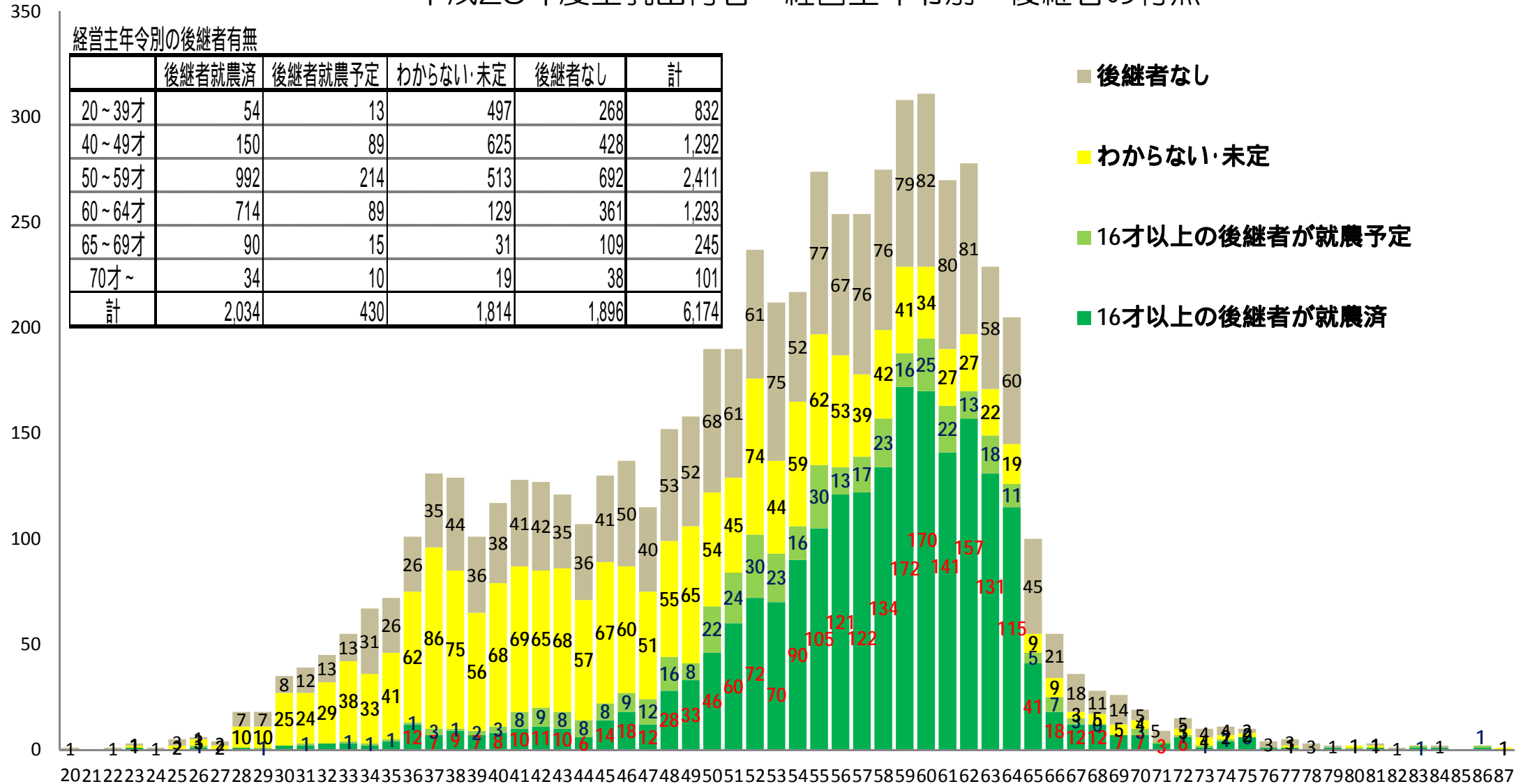
年代別離農戸数と離農主因(平成24年度)



北海道酪農の現状（経営主年令別の後継者有無）

- 酪農家（経営主）の年齢構成は50代～64歳層が多く、約6割は後継者が確保されている。
- 後継者が「わからない・未定」の酪農家が2割程度存在し、先行きの不安から就農をためらう動きもみられる。

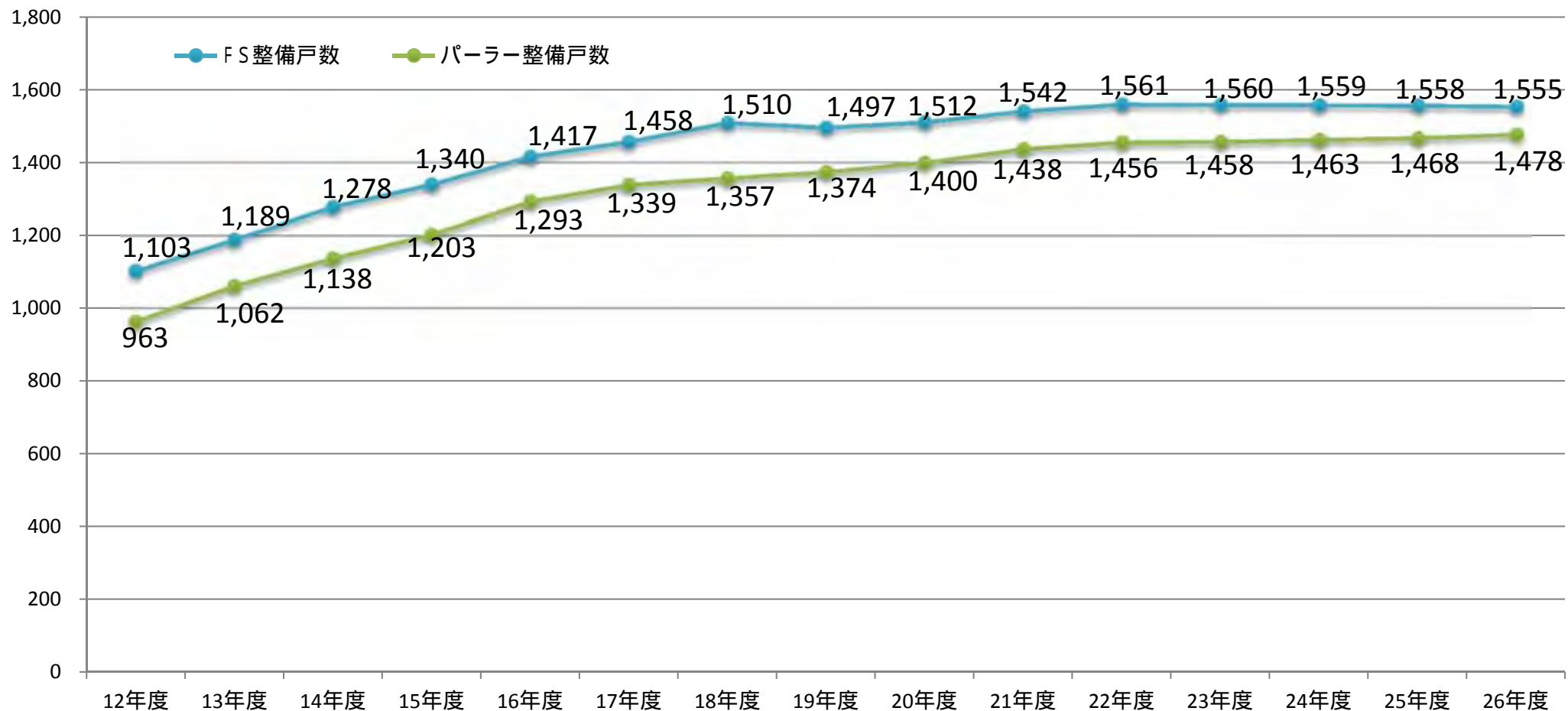
平成25年度生乳出荷者・経営主年令別・後継者の有無



北海道酪農の現状（停滞する施設投資）

○ 北海道酪農は、離農後地を利用し規模拡大することで生乳生産を伸長させてきたが、平成18年度以降規模拡大が減速し、22年度以降は新規の規模拡大が停滞している状況にある。

ミルキングパーラー及びフリーストール牛舎の整備戸数の推移



注) 数値は当該年度報告時のものである。
道畜産振興課調べ